京都朱雀ロータリークラブ
創立5周年記念事業

「21世紀を担う若者達との集い」

本年は、当京都朱雀ロータリークラブ創立5周年にあたり、かねてより種々の記念事業を検討して参りました結果、社会に奉仕、還元するというロータリークラブの精神にそい、来るべき21世紀を担う青少年の育成に最重点課題を置き、現代の社会に於ける問題点を子供達と共に考えるディスカッション形式の会議を開催する運びとなりました。

日々、伝えられる青少年の犯罪を耳にし、経験を経てきた我々大人が彼らに伝えなければならないことは何なのか。その模索と解答を得るためにまず、子供達の置かれている現代を把握しなければならないと考え、上から物を言うのではなく、また一方通行ではない、互いにキャッチボールの出来る会議の進行に留意することから始めました。そして、我々が今成すべき事は記念祝宴ではなくこの事だと確信し、会員一丸となって会議の開催に向け努力して参りました。

まず、会員は班組織に分かれ座談会を持ち、テーマに対する自由闊達な意見交換をし、テーマ、日時、会場決定、ディスカッションの内容、講演会、講演者の選出、参加依頼する若者の年齢層、学校の特定、広報手段、作文朗読、依頼等々の細やかな役割分担とその必要性について重ねて協議いたしました。協議の中では、捕らえ方如何で様々な意見に分かれ、この問題の社会的意義と重要性、難しさを改めて痛感いたしました。解決への道は極めて遠く険しく、地道な努力と意識改革が必要である等の難点ばかりが浮上し、当初は、正直に申しまして「大変な問題を取り上げた」という責任感の重さと共に後悔さえも頭をかすめました。しかし、今私達が目をつむり昨今の政治に習い問題を先送りすれば、手遅れになるばかりか取り返しのつかない事態になるという思いで、開催を決議いたしました。

勝尾会長のご挨拶にもありましたように、さざ波の一つになることを目指し、この会議が足掛かりとなって少年達からの警鐘が一人でも多くの方に届くように祈念しております。

京都朱雀ロータリークラブ
創立5周年記念事業

パネルディスカッション

パネラー　京都府立鳥羽高校生

コーディネーター　栢木寛照氏

テーマ

・学校生活について
（友人関係やいじめ、非行等）

・政治、マスコミの報道の在り方について

・両親や家族との関係について

・流行について

パネラーを含め43名の高校生の参加を得、若者の本音と大人の本音がぶつかり合い、熱のこもった討論が約一時間にわたり繰り広げられた。義務教育を終え高校から好きな選択科目を勉強したい、マスコミは不確かな情報を誇張しすぎだ、流行っているからといって同じ事をするのは個性がない、上辺では合わしているが違うことをしたり言ったりすると疎外され、本当に悩みを打ち明ける友達がいない等の意見が高校生から発せられ、会場からは現役の大学生とO.Bの学習する意識を明確にする大人が子供達に将来の道への選択と方法を数多く提示する等の意見が出、一般参加者からは経験を経て本当の感謝の意味がわかる、親も子供も歩み寄り長い目で物を見る、若者自体がやがて親になりその時の自分が我が子を育てるときにどう思うか等の意見が提示された。

こうして膝をつきあわせて話し合ってみるとあれ程遠く隔たっていた川が手の届くものであったという事を改めて感じ、お互いの鎧を脱ぎ捨てることが先ず重要だと認識した。

小学生の作文発表

京都市立七条第3小学校
京都市立植柳小学校
京都市立光徳小学校
以上11名

記念品贈呈

京都朱雀ロータリークラブ　大前徹夫会長エレクト

まとめ

栢木寛照氏

閉会の挨拶

京都朱雀ロータリークラブ　並河正副会長

司会

KBS京都ラジオ局専任局長　山崎弘士氏

開催趣旨

我が国の複雑な社会環境の下、青少年に今危機が迫っています。彼らが引き起こす様々な問題、事件は果たして彼らだけの責任でしょうか。私達が享受しているこの豊かすぎる文明社会は、その便利さは、あまりにも多くの代償を払ってきました。自然破壊、倫理意識の低下、情緒の欠如、とりわけ後者は国の宝である子供達に悪影響を及ぼしています。これを文明国の常なる弊害と片付けるのは簡単な事です。しかし、このまま振り返る事なく突き進んで行けば、やがて滅亡の一途をたどることになるのではないでしょうか。

京都朱雀ロータリークラブは、このことを憂慮し次代を担う青少年にとって、明るく希望の持てる21世紀を建設する足掛かりを模索する場を提供し、解決への一条の光を見出すべくこのフォーラムを開催する運びとなりました。

かつて、私達の先人は人にやさしく自然にやさしい日本独特の伝統と文化を持っていました。そのことを皆様と一緒に今一度考え直し経済にとどまらず、文化に於いても人間としても誰もが誇る事のできる日本を子供達に継承することが、私達大人の責務だと考えるに至りました。

若者の諸君、希望のある21世紀を共に築いていこうではないか。決して諦める事なく。

開催内容

1998年4月4日（土）
13:00～17:00
京都リサーチパーク

会長挨拶

京都朱雀ロータリークラブ　勝尾黎彦会長

来賓挨拶

京都副市長　薦田守弘氏
（京都市長　桝本頼兼様よりのご祝辞代読を含む）
京都市議会議員　西脇尚一氏

基調講演

比叡山三宝筵住職　栢木寛照氏

テーマ
「自分が輝くとき」

同氏は、テレビ、マスコミでもご活躍され、主な著書に「大人が育てば、子も育つ」があり、物質文明が異常に発達し、人の心、子供の心が蝕まれる心寂しい現代社会を改革するという強い信念を持たれ、各地で講演会を始め、社会的な活動をされています。毎年夏休みを利用し、小・中・高校生を公募し、サイパン島に派遣し、戦没者慰霊法要並びに文化交流を行い、人材育成にも貢献されており、ご自身の活動報酬を青少年育成のために注がれております。今回の講演概要は、健常者が心身ともに健常に育つことの重要性、今日の豊かな日本社会の礎には多くの戦争犠牲者とがれきの中から這いあがり、極貧の中助け合い、許しあい、励ましあった今は忘れられている日本人の良さをもった人々の努力の結果であるということを一人一人が思い起こし感謝しなければならないという骨子の下、約一時間にわたりジョークとペーソスをまじえながら行われました。この内容はまさしく当会の意思に符合するものであり、同氏に深く感謝いたします。